

## 『素問』下巻

ページ		誤	正
3	3行目	地の気を記し，	地の気を法則化し，
	4行目	天の気を記している。	天の気を法則化している。
	5行目	専らこのことを記述し，	専らこのことを法則化して把握し，
5	後ろから 2行目	『方り無し』	『方無し』
6	13行目	このような神明の変化は，あるいは	このような神明の変化は，「あるいは
	16行目	地にあっては水となります。だから	地にあっては水となります」。だから
7	9行目	運動するものであると説き明かしており，	運動するものであることを説き明かしており，
8	上2行目	肇其化元。	肇基化元。
11	8行目	と称した。	と称したのである。
	10行目	中運あるいは大運	「中運」あるいは「大運」
12	6行目	主歳の運が，司天の気と，	主歳の「運」が，司天の「気」と，
	8行目	主歳の運が，	主歳の「運」が，
13	4行目	次説の表六を参照。	次節の表六を参照。
21	4行目	「もしものごとの起源を	「もし，ものごとの起源を
22	下8行目	請うこれを	請う，これを
	11行目	三陰三陽は六気が上に向かって	三陰三陽は六気が上で
23	後ろから 3行目	古代に，	古代の，
	後ろから 2行目	あわせて五運	あわせて，五運
29	1行目	その時すべては至真論篇中に	その時すべては至真なる運氣の原理の中に
30	下2行目	これを問いて曰く，	これに問いて曰く，
34	8行目	古代に天を観測する	古代に天文を観測する
35	3行目	中心は太陽，	中心は太陽であり，
38	下1行目	論に言う，	論じて言う，
40	下2行目	位を命けて，	位を命じ，
41	後ろから 2行目	運動させ，毎年一歩ずつ前進させた（六年で一めぐり循環する）。	運動し，毎年一歩ずつ前進する（六年で一めぐり循環する）と考えた。
44	下4行目	鬼臾区の地に応ずる者は	鬼臾区の，地に応ずる者は
45	下7行目	寒暑六つ入るが故に	寒暑六入するが故に
46	9行目	実はやはり依りかかる	実は依りかかる
	10行目	あるのだろうかという意味	あるのだろうか，という意味
	11, 12行目	六つ入る	六入する
47	11行目	生活の場の下側で，	生活の場の下底で，
48	後ろから 2行目	勝復の作こるやとは，	勝復が作こるとは，
53	1行目	六気は変化は，	六気の変化は，
	8行目	気候が異変を来して	気候が異変を来たして
54	上2行目	炳	炳
	下3行目	燔炳	燔炳（よみ：はんぜつ）
61	後ろから 6行目	五行の一年の	五行の一年ごとの

	後ろから 4・5行目	自分		その気自身
62	後ろから 4行目	人間の生活の場の下，		人間の生活の場の下底，
63	6行目	その内容を明らかにし，		その内容をより明らかにし，
	7行目	考えている。		と見なしている。
64	下5行目	岐伯稽首再拝して		岐伯，稽首再拝して
65	後ろから 3行目	気の応じ方は，象を異にするとあるのである。		気の応じ方も，象を異にするのである。
	後ろから 2行目	少陰や太陽の本標の違いによって，		少陰や太陽の本と標とは異っているから，
	後ろから 1行目	なっているということ」。		なっている」。
67	後ろから 5行目	それがどこまで行って止るのか		それがどこまで行って尽きるのか
68	13行目	中間に現れる気であり，		中間に現れる気（＝中気）であり，
72	後ろから 3行目	火気が発生するが，		火気が発生し，
		最後に蒸し熱くなってといった，		最後に蒸し熱くなっていくのは，
		水気が相火の後を承けるような気象のことである。		水気が相火の後を承けた現象である。
77	5行目	次の八年の歳会があることを調べる。		次の八年の歳会があることがわかる。
79	下8行目	君 臣に位すればすなわち順にして， 臣 君に位すればすなわち逆なり。		君の臣に位するはすなわち順にして， 臣の君に位するはすなわち逆なり。
80	後ろから 5行目	病気は急性でありかなり危険です。		病気は急性であり，かなり危険です。
	後ろから 4行目	病気の勢は緩やかであり病気の進行は		病気の勢は緩やかであり，病気の進行は
84	後ろから 8行目	24度＝天4周0.25×4		24歩＝天4周 0.25×4
85	4行目	満たしてある時から		満たした時から
85	5行目	一瞬の時間のことである。		一瞬のことである。
	後ろから 7・8行目	分と時を「分」「時」にする		
86	5・6行目	次いず		次いで
89	下13行目	願わくは卒くこれを聞かん。		願わくはこれを卒聞せん。
92	下2・4 行目	しかして化ししかして		しかして化し，しかして
	下11行目	出入廃さるれば，		出入廃されれば，
94	8行目	上昇と下降には		上昇と下降は
	9行目	連鎖的な関係があり，		連鎖的な関係にあり，
96	4行目	何か神秘的なものであるのでは決してなく，		何ら神秘的なものでは決してなく，
97	下1行目	上 天の期		上に天の期
98	上7行目	然而衆子衰		然而衆子衰
	下4行目	臣は不敏なりといえども		臣は不敏なりといえども
101	下4行目	上 歳星に応ず。		上に歳星に応ず。
	下9行目	上 太白星に応ず。		上に太白星に応ず。

103	下3行目	上 熒		上に熒
	下7行目	上 辰星に		上に辰星に
	下8行目	上 少陰		上に少陰
	下11行目	上は熒		上に熒
104	5行目	横紋筋のはしで		横紋筋の端で
105	下3行目	上 鎮星に		上に鎮星に
106	下2行目	上 歳星に		上に歳星に
107	下5行目	上 太白に		上に太白に
	下7行目	上 熒		上に熒
108	下3行目	上 太白		上に太白
109	下3行目	上 辰星に		上に辰星に
	下5行目	上 鎮星に		上に鎮星に
	下6行目	上 太陽		上に太陽
	下9行目	上 熒		上に熒
111	下5・ 6・9行 目	上 太白		上に太白
	下7行目	上 陽明		上に陽明
	下12・17 行目	上 熒		上に熒
114	下3行目	上 辰星に		上に辰星に
	下8行目	上 熒		上に熒
	下12行目	上 鎮星に		上に鎮星に
	後ろから 1行目	凍てついて		凍てついた
116	下1・10 行目	上 歳		上に歳
	下8行目	上 太白		上に太白
	下9行目	上 厥陰		上に厥陰
118	下3行目	上 熒		上に熒
	下4行目	上 太白		上に太白
	下8行目	上 辰星に		上に辰星に
	後ろから 1行目	白なりといわなかったのである		白なりとっていないのである
120	下3行目	上 鎮星に		上に鎮星に
	下7行目	上は辰星に		上に辰星に
		上 太陰に		上に太陰に
	下10行目	上 鎮星に		上に鎮星に
121	下1行目	上は歳星に		上に歳星に
122	下5行目	内 肘脇に		内には肘脇に
	下6行目	外 関節に		外には関節に
123	下2行目	内 膺脇に……外 経絡に		内には膺脇に……外には経絡に
	下6行目	内 心腹に……外 肌肉四肢		内には心腹に……外には肌肉四肢
	下10行目	内 膺脇……外 皮毛に		内には膺脇……外には皮毛に
	下14行目	内 腰脊……外 谿谷		内には腰脊……外には谿谷
128	1行目	張景岳の説燔は燃えるという意味。		張景岳の説、「燔は燃えるという意 味」。
130	下2行目	上 五星に		上に五星に

132	下1行目	喜あり怒あり，	喜〔訳釈本，誤りて「善」に作る〕あり怒あり，
134	5行目	訳注（一）の位置を天の右肩に上げる	
135	3行目	原著の	原書の
	後ろから3行目	あるという事を認識していたという事を	あると認識していたということ
137	後ろから3行目	気の利益をもたらす	気の，利益をもたらす
138	2行目	ちょうどいわゆる	正しく
	最後	情況に ついて	情況を
141	2行目	原則に関するものの	原則との
	6行目	他の五運の内の一年を主る歳運には，	五運が一年の万物の在り方を主る場合，
	7行目	色・味・生長	色・味などの生長
	上1行目	大虚	太虚
	下2行目	願わくは平気は	願わくは，平気は
142	上8行目	土曰郭阜，	土曰敦阜，
143	1行目	特徴として	特徴によって
	7行目	水であれば，	水の気であれば，
	後ろから3行目	『郭阜』	『敦阜』
156	11行目	一面ものさびしい様子を	一面にもものさびしい様子となることを
170	下9行目	徴の読み「ち」	
172	下9・10行目	徴の読み「ち」	
179	下1行目	鱗俣の読み「りんら」	
182	下2行目	温かし。	温かなり。
189	2行目	ある蔵が	ある内蔵が
222	下14行目	電あり，	電あり。
223	後ろから8行目	陽の 年が太，	陽の年が太，
253	下3行目	凝惨の読み「ぎょうさん」	
278	下9行目	腹大たり，	腹大たり。
300	上3行目	天及而加，	不及而加，
309	8行目	九宮八風篇も同様。	九宮八風篇も同様 = 訳者補。
334	後ろから4行目	訳した。末尾の	訳した。「失時反歳」以下の末尾の
361	下11・12行目	遠ざく	遠ざけ
370	下2行目	分治するや。	分治するや，
372	3行目	それらが太過になったり	それらは太過になったり
	後ろから2行目	人体の蔵	人体の蔵器（訳注（一）を削除）
374		【訳注】を削除	
388	後ろから3行目	辜丸を引きつり，腰や脊椎を引きつり，	辜丸が引きつり，腰や脊椎が引きつり，
392	下13行目	治して治らず。	死して治らず。
395	6行目	太息をつく	大息をつく
	8行目	治癒することは不可能です。	治癒は不可能です。

402	10行目	清涼の気によって逆に打ち負かされた場合は、	清涼の気が逆にそれに打ち勝った場合は、
414	4行目	鞆丸を引きつり	鞆丸が引きつり
423	下3行目	客の勝は	客の勝つは
464	下1行目	如きあり、	如きあり。
469	後ろから7行目	区別があるが、どのような	区別があるが、それはどのような